

❖ 猛暑の夏に思う、冬の雪のありがたさ

古川義純先生の

雪氷学の トビラ

第20回



札幌の豊かな水資源を生み出している冬の雪山

今年の夏の北海道は、7月前半に猛暑日が5日も観測されるなど記録的な暑さになりました。猛暑となると活躍するのが冷房。エネルギー問題や電気代が気になるのですが、皆さんは、新千歳空港のターミナルビルの冷房システムをご存じですか？実は、冬に大量に降る雪の冷熱エネルギーを利用してはいるのです。積雪の多い地域では昔から、雪を詰めてつくった雪室^{ゆまむら}という自然の冷蔵庫で農作物などを保存して雪の冷熱エネルギーを利用してはいましたが、その用途を広げて、大規模施設などの冷房に利用する研究が進んでいます。

今年度の夏は、7月前半に猛暑日が5日も観測されるなど記録的な暑さになりました。猛暑となると活躍するのが冷房。エネルギー問題や電気代が気になるのですが、皆さんは、新千歳空港のターミナルビルの冷房システムをご存じですか？実は、冬に大量に降る雪の冷熱エネルギーを利用してはいるのです。積雪の多い地域では昔から、雪を詰めてつくった雪室^{ゆまむら}という自然の冷蔵庫で農作物などを保存して雪の冷熱エネルギーを利用してはいましたが、その用途を広げて、大規模施設などの冷房に利用する研究が進んでいます。

今年度の夏は、7月前半に猛暑日が5日も観測されるなど記録的な暑さになりました。猛暑となると活躍するのが冷房。エネルギー問題や電気代が気になるのですが、皆さんは、新千歳空港のターミナルビルの冷房システムをご存じですか？実は、冬に大量に降る雪の冷熱エネルギーを利用してはいるのです。積雪の多い地域では昔から、雪を詰めてつくった雪室^{ゆまむら}という自然の冷蔵庫で農作物などを保存して雪の冷熱エネルギーを利用してはいましたが、その用途を広げて、大規模施設などの冷房に利用する研究が進んでいます。



古川義純 (ふるかわ・よしのり)

1951年生まれ。北海道大学名誉教授。おもな研究分野は結晶成長学、雪氷物理学、表面物理学。北海道大学理学部地球物理学科卒業後、雪の結晶の美と不思議さに魅せられ結晶研究の道に。中谷宇吉郎の弟子のひとり、故小林禎作教授と15年ともに研究を行い、近年では宇宙での水の結晶成長実験なども行っている。好きな食べ物は、麺類何でも。

※当コーナーのバックナンバーが、北海道大学低温科学研究所のホームページで読めます→
<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/>

